

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2793100088		
法人名	生活協同組合ヘルスコープおおさか		
事業所名	グループホーム 花しょうぶ		
所在地	大阪市旭区生江2-4-16		
自己評価作成日	平成29年6月28日	評価結果市町村受理日	平成29年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年7月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

何事も入居者様と一緒にいることを基本に考えている。また、入居者様の慣れ親しんだ生活様式が保てるようなサポートを心がけている。
毎月スローガンを設定し、接遇や、チームワークなどを意識する事ができるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、公園、小・中・高校、病院、商店街、コンビニ等が近くにあり、生活・交通ともに便利な区域に在る。管理者を中心に職員間のコミュニケーションが良く、公私の別なく助け合い、利用者のチームケアに努めている。職員の定着率は高い。理念を「お一人おひとりが、慣れ親しんだ生活様式を保てるように、ゆっくりと見守っていきます」とし、利用者夫々の今までの生活歴や趣味・嗜好を丁寧に聴き取り、今後のホームでの暮らし方の意向・希望に寄り添って、その人のペースでその人らしく楽しく暮らせるように職員全員で、「目配り」「気配り」「心配り」している。立地条件を活かして、ホーム周辺や近くの公園への散歩、商店街への買い物・地域行事への参加等日常的な外出支援に重点的に取り組んで、ADLの維持と地域との交流の深化に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2012年5月の事業所開所時に理念を作成。事業所玄関に掲示し共有できるようにしている。	生活共同組合を基盤とした地域交流を念頭に、職員皆で作った事業所理念「お一人おひとりが、慣れ親しんだ生活様式を保てるように、ゆっくりと見守っていきます」を玄関や各ユニットに掲示している。ミーティング時等常に振り返りながらその実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや防災訓練への参加、地域と共催での地蔵盆も行っている。	町会に加入し地蔵盆の共催や、自主防災訓練、夏の元気祭り・ソーメン流し、餅つき大会等の地域行事、保育園の遊戯会等に参加し地域との交流に努めている。町会での介護相談や地区生協の介護研修の講師役を担って地域貢献にも積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生活協同組合の事業所なので組合員に向けての学習会を行っている。 (定例で2ヶ月に一度組合員の班会において学習会を行っている。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度より定例化することで年間6回開催出来ている。事業所への意見と共に地域のイベントの情報を得ている。	昨年度は、地域包括支援センター職員、町会長、家族の参加の下、6回開催している。運営状況の報告の後、事業所の課題について意見を求め、双方向の会議となっている。	地域代表として町会長のほかに民生委員や知見者および元気な利用者の参加を呼びかけ、メンバーの充実を図る事を期待する。また議事録を利用者家族へ送付して推進会議への関心を喚起されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常の相談の他、旭区のグループホーム連絡会に介護保険課、地域包括センターも参加し、情報の共有、意見交換を行っている。	介護保険課と生活支援課へ、定期的に出向き運営状況を報告し、アドバイスを受けたり情報交換して協力関係を築いている。区内の6グループホーム連絡会にも積極的に参加して意見交換と情報の共有を諮っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤帯を除き、玄関およびフロアの施錠はしていない。また、会議の中で身体拘束の内容を共有している。	年間研修計画の中で、「身体拘束の対象となる具体的な行為」を取り入れ正しく理解し、会議でも常に取り上げ身体拘束をしないケアに努めている。昼間は、玄関・フロアとも施錠せずに見守りを重視して、外出希望に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や学習会の中で虐待について周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修参加や職場会議をつづじて周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居手順書に基づいて説明を行い、納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付書を作成し、運営に反映させるようにしている。	利用者の意見・要望は、日々の関わりの中で丁寧に聴き取るようにつとめている。家族からは、訪問時に介護記録等を基にホームでの暮らし振りを説明して、意見・要望を聞き運営に反映させている。「花しょうぶ通信」を毎月発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職場会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、半期に1度職員面談を実施している。	管理者は、個別の課題については日々の関わりの中で即決し、全体に関わる事案の意見・提案については、月1回開催する職場会議で皆で話し合い運営に反映させている。年2回個人面談も行なっている。管理者と職員間のコミュニケーションは極めて良く取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に則って運営を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年1回力量チェックを行っている。また、教育訓練計画を立て研修に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旭区にある6つのグループホームで、3か月ごとに連絡会を行い情報共有・連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要求事項明確化手順書を作成し、その内容にそって入居者の要求する事項を明確にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要求事項明確化手順書を作成し、その内容にそって入居者の要求する事項を明確にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する前にアセスメントを行い、そこから必要な支援方法を考え、必要であればその他サービスの利用も考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや、掃除、洗濯など入居者様と職員が一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、グループホーム通信を発行し郵送している。また、面会時間も設定せず、どの時間帯でも来訪できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方にも積極的に来訪してもらうように、家族の方に伝えている。	年々馴染みへの関心が薄れていく中、家族やボランティアの協力を得て、友人や知人を訪ねたり馴染みの店や場所へ行ったりして関係を続けるように支援している。またホームでの新しい友人関係を作る支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性やかかわりの傾向を把握し、共に生活する者同士支え合える支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたあとの訪問など、自然なつながりで支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の一言一言に耳も傾けることで、その方のニーズを把握することに努めている。	アセスメントシートにより、夫々の生活歴や暮らし方の希望や意向を把握し、入居後は日々の関わりの中で、特に散歩や入浴等の個別ケア時の心身ともゆったりした時に本音が聴き取れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントの際に過去の本人様の暮らしをご家族様から聞くようにしている。入居後も随時入居者様本人や、家族様から話を聞く機会を持つようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の入居者様の状況をフロア会議や申し送りの中で情報共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとのモニタリング実施。また、全スタッフがアセスメントを行うことで、現状に即した介護計画が作成できるように取り組んでいる。	本人・家族の意向を聞き、医師・看護師の診療記録・介護記録やモニタリングの結果等を基に、計画作成者と利用者担当が原案を作り、サービス担当者会議を開いて皆で検討して利用者の現状に即した介護計画を作成している。状態の変化が生じたら医師の所見を基に直ちに直直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人記録に行っている。毎月フロア会議を行い、		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われないう、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様に必要であろうサービスが出てきた時は、家族・診療所・その他の機関と連携してサービス提供ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている、ふれあい喫茶や語茶会、イベント等に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と常に連携をとっている。往診は月2回あるが、体調変化時は随時往診あり。携帯電話にて24時間連絡可。	本人・家族の希望を尊重している。従来のかかりつけ医の受診者は2名で原則家族が同行するが必要に応じて職員が支援している。その他16名は事業所の協力医の月2回の往診を受けている。体調の変化時は随時往診可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に関わらず日々の様子や体調に変化のあった時には報告を行い、必要時の受診など適切な対応が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先病院と情報共有を図り、早期退院に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化対応指針書を作成し、同意を得ている。開所以降9名の看取りを行ったが、家族・主治医・事業所の意思確認はしっかりと行うようにしている。	入所時に重度化および終末期の対応について事業所の基本方針を説明し、同意を得ている。重篤な状態になった場合は再度医師を交えて家族の意向を確認して、希望に沿ったケアに取り組んでおり、今までに9件の看取り実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは作成しているが、定期的な訓練はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2016年度夜間想定で地域住民も参加する形での避難訓練を実施している。今後も回数を重ねることで地域の協力体制の確立に努めていく予定。	昨年度は11月25日夕刻に消防署立会いの下、地域住民3名参加して避難訓練を行なった。夜間各フロア1人体制での初訓練で戸惑いや課題も見つかっている。	年2回の訓練では、ローテーションで参加できない職員もあり、夜間を初め万一の災害に即応するには、今一度マニュアルの見直しとミニ訓練の回数を増やす事を期待する。また、フロア間の階段・通路の安全確保の見直しに工夫を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権意識・プライバシー・接遇については、職場会議、申し送りでも繰り返しその重要性について周知させている。	利用者一人ひとりの人格の尊重、誇りやプライバシーへの配慮については、人権・倫理・接遇・プライバシー保護等の研修で繰り返し学び、日々の関わりの中で人生の先輩として言葉遣いや対応に注意している。個人情報に関わる書類は1階の鍵の掛かる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをする際は、必ず本人様に説明を行い、希望を聞くことで、自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念である「お一人おひとりが、慣れ親しんだ生活様式を保てるように、ゆっくりと見守っていきます。」の実現のため個別性を大切にサポートをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族から好みを聞くことや、暮らしから予想されることを日頃のケアに活かす支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のカットや米とぎ、盛り付けなどそれぞれの方に能力に合わせて参加して頂くようにしている。	食材とメニューは業者から配送され、職員が交代で調理し、形態を整えて提供している。可能な利用者は盛り付けや後片付けをしている。検食は毎食行い、業者と連絡を取り合っている。誕生会や季節の行事食も利用者の希望を取り入れて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1000mlは摂って頂けるよう取り組んでいる。食事の形態や声掛けの方法など、それぞれの状態に合わせた工夫をすることでしっかりと食べて頂けるよう取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に応じて必要な物品を用意している。介助についてもそれぞれの状態を把握し、過度な介助の行う事の無いよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの能力や排泄パターンに応じた誘導や介助を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄一覧表で把握し、余裕をもってさりげなく声かけてトイレでの快適な排泄に向けた支援を行なっている。現在完全自立者は2名だが、オムツからリハビリパンツへ、リハパンから布パンツへの改善事例は4～5件ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は1日1000mlは摂って頂けるよう取り組んでいる。また日常的に体を動かして頂くことや、便秘時には牛乳を飲んで頂くなどそれぞれに合わせた対応も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回は入って頂けるよう声掛けを行っている。入浴時間は基本的には午後からであるが、随時個人の要望に応えるようにしている。曜日は特に決めていない。また、ゆず風呂など季節を感じて頂けるような工夫も行っている。	入浴は、週最低2回としているが利用者の体調・希望により柔軟に対応している。入浴を嫌がる人には、人や日時を代え、足浴・シャワー浴・清拭等の工夫・対応をしている。季節により、菖蒲湯やゆず湯を楽しむ工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ個別の体調など状態に合わせた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容についてはフロアにファイルを用意いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩・買い物など外に出る機会を多く持てるよう取り組んでいる。それぞれの方が出来る事を生かし調理やレクリエーションの場面での役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や買い物、地域のイベントなど、外出の機会を持っていただけるよう取り組んでいる。ご家族様にも協力して頂いている。	本人・家族の要望とADLの低下の予防を目的として、日常的な外出支援をホームの重点ケアの一つとして取り組んでいる。ホームの周辺や近くの公園・商店街への買い物・地域のイベント等に積極的に出かけている。城北公園や天王寺動物園等へも家族・ボランティアの協力を得て行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は事業所で管理しているが、いつでも使えるように話をしている。事業所では預からず、本人様が所持されている方もおられ、日用品の購入など希望があれば職員と共に買い物にも行かれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話を自由に使用していただいている。また、電話設置・携帯電話等についても制限はしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある作品作りを行いフロア内に掲示するようにしている。	居間兼食堂は、明るく清潔感があり温度・湿度も高齢者が過ごし易いように調整されている。壁面には、行事の写真や利用者と職員が一緒に作った草木染めのランチョンマット・習字・クレヨン絵等の作品が飾られておりゆったりと寛ぎながら居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内のソファや玄関にベンチを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものやなじみのものがあるれば持ってきていただくようにしている。	居室は全て畳部屋で、ベッド・クローゼット・エアコン・スプリンクラー・ナースコールが設置されている。その他は、今までの生活様式が保てるように使い慣れた家具や家族の写真、中には仏壇・鏡台が持ち込まれ、本人が安心して居心地良く過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかる・できることに配慮した環境づくりを行っている。		